

1 学校教育目標

志をもち こころ豊かに たくましく生きる子の育成

～ 一人一人が輝き、笑顔あふれる楽しい学校 ～

2 本年度の重点目標

- 感染症対策の徹底と教育活動の充実、行事や特別活動等の工夫
- 新学習指導要領に基づく教育課程の実施、授業の工夫改善、基礎基本と主体的な学び <知>
- 命や人権を大切にす心、思いやりの心の育成(人権、道徳、生活など) 規範意識やリーダー性の育成、自ら課題を解決する力の育成(特別活動など) <徳>
- 心身の健康と日々の主体的な取組、体力の向上と多様な動きづくり(汗の出る体育) <体>

3 自己評価結果(達成状況)【 A:達成している B:概ね達成している C:あまり達成していない D:達成していない 】

4 自己評価方法の適切さについての学校関係者評価

コロナ禍で数値目標が明確化しにくい状況の中で、今年度も評価の観点に沿ったアンケートを実施し、数値化したアンケート結果も3年間の経年比較を行っていることは評価に値するとともに、適切かつ妥当な自己評価がなされている。前年度の改善の方策が十分に活かされた学校評価になっているので、今後も継続して欲しい。タブレット端末の導入で教職員の負担の増加が気になる。教職員のケアもお願いしたい。

5 評価の観点ごとの学校関係者評価

評価の観点	評価項目(取組内容)	取組(達成)の状況	改善の方策	学校自己評価結果及び改善の方策の適切さについての評価
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ○言語活動の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・全教科を通じて、対話の場を設定して、言語活動の充実を図っていく。 ・豊かな国際感覚、コミュニケーション能力を身につけるため「話せる英語教育」の充実に取り付け、ALTと連携を取りながら積極的な取組を進める。 ○わかりやすい授業の創造 <ul style="list-style-type: none"> ・児童に授業の見通しを持たせ、めあてを設定し、ふり返りをさせることで、学びの成果を自覚させ、主体的に学べる授業を創造する。 ・タブレット等の教育機器を活用したり、具体物を通しての操作活動を行うことで視覚化を図り、よりわかりやすい授業を創造する。 ○プログラミング教育の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器を活用し、児童の情報活用能力の育成を図る。 ・発達段階に即したプログラミング的思考の伸長を図る。 ○基礎基本の定着 <ul style="list-style-type: none"> ・少人数授業を行ったり、家庭との連携を図ったりする等、さらに個に応じたきめ細やかな指導を工夫する。 ・授業以外に設定した「さわやかタイム」「計算スキルタイム」の時間や、タブレットドリルや自主学習の取組を通して、基礎学力の定着を図る。 ○授業づくりの充実 <ul style="list-style-type: none"> ・思考力・判断力・表現力を育てる授業の工夫改善のための研修に努める。 ・講師を招聘した研修を行い、教師の指導力向上を図る。 ○家庭学習の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・自主学習を行う等、主体的に学びに向かう姿勢を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講師を招聘し、指導技術の向上のため一人一授業を行い、言語活動の充実を図るための研修を積んだ。 ・全学年でALTと共に英語活動に取り組んだ。 ・単元の学習の流れやめあてを掲示し、授業の見える化に努め、学習の見通しをもてるようにした。さらに学習の最後にふり返り、学びのまとめを行った。 ・タブレットPCやデジタル教材等を活用したり、具体物で操作活動を行ったりすることで視覚化を図れた。 ・プログラミングの職員研修を行い、指導技術の向上を図った。また、発達段階に応じて、プログラミング的思考の伸長を図った。 ・算数の学習では中学年・高学年において少人数指導を取り入れ、きめ細やかな指導を行った。 ・「さわやかタイム」「計算スキルタイム」の時間を授業以外に設定し、基礎学力の定着を図った。 ・夏休みの課題や授業などにタブレットドリルを活用し、復習をすることで、基礎学力の定着を図った。 ・国語科を中心に、個人思考の充実を図り、授業の中に対話を取り入れ、集団の中で思考力、判断力、表現力の育成に努めた。 ・3年生以上で自主学習を取り入れ、自主学習の手引きなどを活用して、充実を図った。1階中央廊下に、自主学習ノートを掲示し、意欲の向上を図るとともに、上級生のノートを手本とした質の向上も図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小中9年間を見通して、系統性を意識した指導を各教科で行っていく。 ・全ての授業等を通して、言語活動のさらなる充実に向けて取組を進める。 ・全ての授業で、めあてからふり返りまでの学習の流れを定着させ、児童に単元や毎時間の見通しを持たせる。 ・漢字タイムや計算タイムなどを活用し、基礎基本の定着を図る取組を継続する。 ・タブレットPCなどの教育機器の積極的な活用を進め、個に応じた学びを充実させる。 ・児童が学習において有効にタブレット端末を活用することができるよう、指導を行う。 ・家庭と連携しながら、家庭学習の取組について考える機会を設ける。 ・ALTと連携し、フォニックスを活用するなど、外国語活動や外国語の指導の充実を図る。 ・算数科等で引き続き少人数指導を実施し、個に応じたきめ細かな指導を行う。 ・教科横断的に思考力、判断力、表現力を育成するための年間指導計画の作成を進めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症、特に新種のオミクロン株の影響を受け、学校休校や学級閉鎖となったが、タブレット端末を使っているオンライン授業を積極的かつ組織的に実施するなど、児童の学力維持・向上に向けて、様々な取組を行ったことは評価に値する。日頃から一人一台貸与されているタブレット端末を、有効に活用して学習している。さらに、個に応じたきめ細かな指導をしていくことが重要である。 ・児童・保護者アンケートの結果からも、日々の漢字タイムや計算タイムで取り組んでいる読み書き・計算の力は定着しつつあることが伺えるので、継続した取組を願いたい。 ・グローバル化に対応できる子どもの育成のため、低学年からALTやICT機器を活用しながら外国語活動に取り組まれている取組は評価に値する。今後指導の充実に向けた取組を推進していただきたい。 ・自己評価Aは妥当である。
特別活動 生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ○学校生活の向上 <ul style="list-style-type: none"> ・「4つの大切なこと」「4つの大事な環境」をはじめ、自分の学校や学級をより良くしていこうとする意欲や態度、実践力をさらに育てる。 ○落ち着いた生活習慣の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・落ち着いた1日が始まるよう、朝の活動を大切にす。 ・児童が教師と話しやすい雰囲気をつくり、可能な限り児童と共にいる時間を増やし、内面理解を深める。 ○望ましい人間関係の形成 <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中でも、できることを自ら探し創意工夫しながら、代表委員会活動、異学年交流を行うことで、学級活動や児童会活動などをより一層充実させ、児童の自主性を育む。 ・学校いじめ防止基本方針の取組内容を計画的に推進することで、よりよい人間関係を育んでいく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の制限がある中で、児童会活動や委員会活動で「4つの大切なこと」「4つの大事な環境」を大切にた学校風土づくりに努めたが、「自由っ子のきまり」と「4つの大切なこと」への指導の共通理解ができていなかった。 ・高学年が中心となって学校生活をより過ごしやすくするために、児童会や委員会の活動の活性化を図った。一定の効果もあったが、コロナ禍のこともあり活性化しにくい面もあった。 ・朝の活動(読書と読書タイム、漢字タイム、児童朝会)が定刻通り落ち着いためられている。 ・可能な限り児童と共にいる時間を増やし、児童が教師と話しやすい雰囲気をつくることのできるようになった。 ・地区児童会後の時間や自由小フェスなどの異学年交流を図り、児童が計画的・主体的に取り組めたが、学年相互の学習の交流が以前と比べ少なくなっている。 ・定期的に生活アンケート等をとり、問題の早期発見を心がけた。また、教職員間、SCや関係諸機関とも連携し、組織的に活動した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に行動ができる児童を育てるため、異学年の交流や活動を充実させていく。 ・学校生活向上のためのクラス等での取組(生活目標の振り返り、ハートフル運動等)を継続して行う。 ・心地よい静けさの中で行う「さわやかタイム」を継続して実施する。 ・問題行動の予防、早期発見、早期対応、児童の内面理解に継続して組織的に取り組んでいく。(SC・学年間の連携、アンケートや教育面談の定期的な実施等) ・児童会活動や委員会活動を児童が、できることを創意工夫しながら、計画的・主体的に取り組めるようにさらに充実させ、児童の主体性や自己有用感の向上をめざし、よりよい学校文化を創造する。 ・「4つの大切なこと」や生活目標について、朝の会を有効活用し意識づけをはかる。また、長期休業前にネット利用について、長期休業後に「自由っ子のきまり」についての確認を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の中、学級閉鎖等様々な制約がある中で、「4つの大切なこと」「4つの大事な環境」についての努力されたことは評価できる。特に、児童への人間関係づくりや仲間づくり、相談しやすい教師との関係づくりに向けての取組は今後継続していただきたい。 ・学校風土は、とても重要な事柄かつ社会道徳の基本になる部分であるので、次年度以降も児童会や異学年との交流を通じて醸成させていきたい。 ・ホームページからも異学年交流の様子が発信されており、上級生たちが意欲的に取り組んでいる姿が伺えた。主体的に行動できる児童の育成のため、交流や活動内容を工夫しながら今後も継続して取り組んでいただきたい。 ・可能な限り児童と共に過ごす時間を増やしたり、定期的にアンケートをとったりすることで、いじめの早期発見に努めている。 ・挨拶運動が定着してきており、登下校時さすがすがすがしい気持ちの良い挨拶ができる児童が増えてきており、地域住民に活力を与えている。 ・自己評価Bは妥当である。
道徳 人権教育	<ul style="list-style-type: none"> ○人権が大切にされる学級・学校づくり <ul style="list-style-type: none"> ・日常的に意識を高めながら、自他の人権を尊重し、相手を認め支えようとする人間関係を育む指導を行う。 ・人権週間や人権学習についての取組について、人権参観やホームページ、通信を通して家庭に啓蒙したり、家庭においても兵庫県版道徳教育副読本を親子で読んだりする等、保護者にも考える機会を提案する。 ・人権週間では他者の良い所を認め合う活動を通して、自尊感情や思いやりの心を育む。 ・ネットモラルに関して、インターネット教材や映像を用いた指導を行うことで道徳的判断力を高める。 ・スクールカウンセラーによる研修を実施して、児童の内面理解に基づいた指導法について研修する。 ・新型コロナウイルスによる誹謗・中傷等の新たな人権課題についての正しい理解と問題解決に向けて考える指導を行う。 ○道徳の実践力の育成 <ul style="list-style-type: none"> ・教科書「いきるちから」や兵庫版道徳教育副読本を活用し、道徳性の涵養を図り、体験活動を通して道徳の実践力が育つ指導のあり方について研修を深める。 ・道徳の実践力を育てる「考え、議論する」道徳授業の在り方等について、道徳教育の要となる道徳科の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・あらゆる教育活動の中で、人権について考えさせた。 ・全教育活動を通じて、学年・学級づくり、仲間づくりに取り組んだ。 ・各学年で行った人権学習を、人権参観や学年通信、ホームページを通して保護者への啓蒙を行った。また、人権参観後には参観した保護者の方に感想を書いていただき、それを児童と共有したことが学習の深まりへと繋がった。 ・学年の実態に応じて、兵庫県版道徳教育副読本を用いて家庭でも考える機会を持った。 ・人権週間やオンラインでの人権集会では、ハートフル運動での横断や人権作文、標語、ポスターの紹介を行い、周りの人への思いやりについて考える場をもちた。 ・講師を招聘してサイバー犯罪から身を守る方法について学習したり、ネットモラル教材を用いた指導を行ったりすることで道徳性の涵養を図った。 ・スクールカウンセラーによる「ストレスマネジメント」の授業を行った。 ・新型コロナウイルス感染症に対する正しい理解を深め、誹謗・中傷を防ぐために日常的に学級や学年、全校での指導を行った。 ・道徳の授業の展開や評価の仕方について講師を招聘して研修を行った。 ・3校合同オンライン講演会で、保護者と共に職員も人権研修を積むことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 人権推進計画に基づいた指導を推進していけるように、日常的に意識を高めて取り組む。 ・SNSに関連した問題は社会的に増加傾向にあるため、引き続き、ネットモラルに関する指導を行っている。 ・スクールカウンセラーによる授業や職員研修を引き続き実施して、児童の内面理解につなげる。 ・道徳の実践力を育てる「考え、議論する」道徳授業の在り方等について計画的に研修を行い、道徳教育の要となる道徳の時間の充実を図る。 ・新しい生活様式に合わせた学校行事や体験活動の中でも、優しさや思いやりなどの道徳的心情や実践力を育てる指導を計画的に行っていく。 ・新型コロナウイルス感染症に対する正しい理解を深め、誹謗・中傷を防ぐためにパワーポイントで作成した資料等を用いて学級で計画的に指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳人権教育は、人間関係づくりや平和な社会を築くために基礎となる学習であるため、今後も学校の最重要課題として捉えて取り組んでいただきたい。 ・ネットモラル教材を用いた指導を行うことで、道徳性の涵養を図ったり、新型コロナウイルス感染症について正しく理解させ、誹謗中傷等を防止するための指導を行ったりするなど、人権が大切にされる学級・学校づくりに努めていることは評価に値する。引き続き、発達段階に応じた計画的な指導を願いたい。さらに、保護者に対しても学ぶ場を設定することによって、より効果があがることが期待される。今後、そのような場の設定を模索していく必要がある。 ・自己評価Aは妥当である。
特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ○個に応じた指導の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・支援を要する児童について研修を深め、適切な教育的支援を行い、合理的配慮を組織的に推進し、指導の向上を図る。 ・関係機関や保護者との連携をとり、就学前から卒業後へとつないでいく切れ目ない支援体制を整え、児童、保護者のニーズにあった支援を心掛ける。 ・感染症対策により、大きく変わった環境に対応できるように、分かりやすい指導・支援を心掛ける。 ・外国にルーツを持つ児童の日本語指導を行い、よりよい学校生活がおくれるように支援する。 ○インクルーシブ教育システム構築のための取組の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・授業や行事等、機会をとらえ、互いを認め合い、支えあう仲間づくりを計画的に推進するため、生活指導委員会、教育支援委員会、日本語指導委員会等、支援が必要な児童の様子を一括できる様式にし、情報共有して組織的に指導していく。 ・インクルーシブ教育システム構築に向けて、道徳や人権教育等と連携して進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携するとともに、指導、助言を個に応じた指導に生かした。 ・こども園、幼稚園等との連携は積極的に行っているが、中学校との連携がまだ十分ではない。 ・外国にルーツを持つ児童の日本語指導を、数名の担当者が互いに協力し合い、個に応じた指導ができた。 ・新型コロナウイルスの影響で校外等の研修は難しかったが、校内では、感染対策をとりながら、児童の情報を共有する場を設けた。 ・新型コロナウイルス感染症対策を、子どもたちに分かりやすい指導を心がけ、全職員で同じように指導ができるようになった。 ・外国にルーツのある児童も多いので、新型コロナウイルス感染対策について、子どもだけでなく、保護者にも分かりやすい説明やサポートをする必要があった。 ・毎月、教育支援委員会、校内支援委員会を開催し、児童全員の支援の体制や方法を検討し、指導に活かした。 ・生活指導委員会、教育支援委員会等、支援が必要な児童の様子を一括できる様式にし、より情報共有を効果的に行えた。 ・新型コロナウイルス感染症対策をした上で、子ども同士の関わりが持てるようになってきたので、少しずつ子ども同士の理解が進んできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合理的配慮と教育的支援についての研修の機会を増やし、具体的な事例などを基にして、各学級での合理的配慮の実践例を広め、指導の向上を図る。 ・関係機関と連携しながら、保護者との相談を密にしていき、個別的教育支援計画の充実を図り、児童、保護者のニーズにあった支援を心掛ける。 ・切れ目ない支援体制をととのえるために、中学校との連携を密にしていける。 ・特に外国にルーツのある児童は、日本語指導や新型コロナウイルス感染症対策を含めた家庭への支援についても関係機関等とも連携しながら支援していく。 ・特別な支援を要する全ての児童の個別的教育支援計画と個別の指導計画を作成し、指導の充実を図る。 ・学校全体で、様々な特性を持った児童がいることを知る機会を増やし、それを認め合える学級経営を基に、組織的に推進していく。 ・「インクルーシブ教育システム」の構築に向けて、道徳や人権教育等と連携して進めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活指導委員会、教育支援委員会などで支援が必要な児童について効果的に情報共有が行えるシステムが構築できており、関係機関とも連携しながら、児童、保護者のニーズにあった支援が行えている。 ・外国にルーツのある児童が増加している中、日本語指導などの個に応じた指導が、組織的に行われている。また、保護者に対しても、連絡を密にとったり、学校からの案内文等の翻訳を行ったりと努力されている姿に敬意を表したい。今後、このような児童や保護者に対して、支援していく体制を地域と連携して構築していく必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、こども園・幼稚園・そして中学校との連携をとりながら、切れ目のない支援体制を整えようとしてきている姿は評価に値する。 ・自己評価Aは妥当である。
健康 安全教育	<ul style="list-style-type: none"> ○心身の健康づくり体力づくり○感染症対策 <ul style="list-style-type: none"> ・「新しい生活様式」を継続し、感染及び拡大のリスクを低減する。また、熱中症対策など健康確保に向けた取組を行う。合わせて、健康づくりを意識し自ら取り組むことができるよう、掲示や指導等の工夫を行う。 ・基本的な生活習慣の定着化を図るため「ふりかえりカード」での点検指導を継続的に行う。 ・楽しい体育、適度な運動量を確保できる体育の授業作りを行い、児童の体力向上を図る。 ・子どもたちが主体的に計画する体育イベントを開催し、児童の健康づくりや仲間づくりの意欲の向上を図る。 ○安全・健康・食育・保健体育教育への関心を高め、家庭と連携した取組の充実化を図る。 ○安全指導 <ul style="list-style-type: none"> ・関係機関と連携を図る等、安全教育を推進する。 ・防災訓練(大雨・不審者対応・地震)の内容を工夫して、危険予測能力や危険回避能力を高める取組を、家庭、地域、関係機関と連携して取り組む。 ・感染症対策の観点を踏まえ、配膳や食事中の安全面・衛生面を考慮した給食指導を、継続的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期欠席や休校に備えて、健康観察や学習課題にオンラインで取り組めるよう準備を進めた。 ・「すくー」でコロナ関係の感染予防にかかる登校基準など、状況に応じ、こまめに配信している。 ・健康診断は、密を防ぐために距離をとって整列させる等感染症対策を十分に講じた上で実施した。 ・毎朝の体温測定を含む健康観察を徹底して行い、児童の健康状態の確認に努めた。また、環境衛生のために毎日、児童・職員ともに校舎内の消毒作業にも努めた。 ・マスクの着用や換気、外遊びの推奨などについて、保健指導や毎日の放送で意識できるようにした。 ・毎月「ふりかえりカード」で生活習慣指導について家庭の協力を得る事ができた。校内では健康観察や給食指導、歯並び大作戦、腰痛や丸なごの継続した取組によって健康づくりを意識させた。 ・体育科の授業は、運動後の手洗い・消毒をすることや可能な範囲で密を避けることなど感染予防の意識を持たせた上で「運動量のある体育」の実践に努めた。 ・クラスでの安全教育(指導)はもちろんのこと、毎朝職員の校門での登校指導・下校指導・地区児童会での安全旗の使い方やDVD視聴による交通安全面に関する安全指導に取り組んだ。 ・地震の避難訓練を実施するとともに学年のカリキュラムに応じた防災教育に取り組んだ。 ・定期的に校外補導を実施し、下校後の児童の実態把握に努めた。 ・学級指導や委員会活動として児童が放送でマスクの着用・払拭の厳禁を呼びかけするなど感染症対策の重要性が全校生に伝わるように給食指導を日々徹底して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯を見通した健康意識を育てるため、振り返りカードからみられる課題や基本的な生活習慣の確立、ストレスマネジメント、危険予知能力の育成などの取組を引き続き行う。 ・腰痛タイム、給食指導、感染症予防など継続した指導を行う。 ・体育イベントを開催し児童の健康づくりの意欲の向上を図る。 ・委員会活動等で多くの学年の児童が外に出るきっかけを作ることで、外で遊ぶことが好きな児童が増えるようにする。 ・「防災ブザーやヘルメットの着用を推進するため、家庭への呼びかけ、交通事故防止や学校内外の安全について、啓発を図る。 ・引き続き外部関係機関との連携を図り、安全・防災教育の内容を深める。 ・防災教育のカリキュラムの充実を図り、防災や減災の意識を高める。 ・新しい生活様式に応じた健康・安全・食育・防災教育に取り組む。 ・新型コロナウイルス感染症の影響に関する心のケアが必要な児童の早期発見に努め、心身の健康に適切に対応する。 ・感染症に関連したストレス・いじめ、偏見等に対し、十分配慮した指導に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の体温測定やマスク着用・健康観察の徹底ならびに、日々の校舎内の消毒に努めたことで、新型コロナウイルス感染予防の重要性の意識が児童にも浸透している。今年度は、オンラインでの健康観察等を行うなど、さらに十分な対策がとれていた。また、トイレや洗面所の改修を行ったことで、子どもたちが健康的かつ快適な学校生活を送ることができている。 ・コロナ禍での、子どもたちの健康への様々な配慮・対応ができている。また、達成状況の分析も細かく行っており評価できる。 ・マスク着用などの感染症対策を講じつつ、委員会活動等による外遊びを通して、健康づくり、体力づくりを行っている点は評価に値する。今後も継続をお願いしたい。 ・地域総合防災訓練では、子どもたちは地震車体験等、防災に関わる様々な体験をすることができ、阪神淡路大震災を知らない児童たちにとって貴重な体験になった。 ・自己評価Aは妥当である。
家庭 地域との連携	<ul style="list-style-type: none"> ○地域のコミュニティとして <ul style="list-style-type: none"> ・オープンスクール、参観等(分級による参観・オンラインによる参観等)で、可能な限り学校や児童の様子を公開(動画配信等)し、保護者、地域に信頼される学校を創造する。 ・感染症対策を講じた学校行事を実施し、感染対策に気を配りながらの日々の教育活動、メールシステムによる速やかな情報発信などを実施することで、安心される学校を目指す。 ・ホームページや通信、PTA広報誌、地区懇談会等を通して積極的な情報発信を行う。校区内に居住されている人材を発掘するなど、保護者や地域の方々に協力依頼して教育活動に活かす。 ・避難所として開設を想定した諸準備を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の状況を見ながら、学校行事等の子どもたちの様子を個人情報保護にも留意しながら、児童の姿を可能な限り公開できた。 ・ホームページや学校通信、学年通信等で、児童の肯定的な変容の様子を伝えた。また、メール配信(すくー)でも速やかな情報提供に努めた。 ・登下校の見守り等で、老人会・垣根隊の方々との協力を得ることができた。 ・クラブ活動や平和学習に、地域指導者を積極的に呼び寄せ、多様な専門的な方々と触れ合う学習を行うことができた。 ・地域防災活動として、災害時を想定した学習や体験を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の状況を見ながら、オープンスクールや学校行事等にきていただくように、時期や方法など柔軟に対応できるようにする。 ・ホームページや学級通信で学校行事や学年・学級の様子を継続的に情報発信する。 ・校区内に居住されている人材を発掘し、その情報を引き継ぎ教育活動に活かす。 ・コロナ禍での学校と家庭のつながりを構築するための方法を検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期の緊急事態宣言下等、保護者や地域住民が来校できない時は、参観日をオンラインとしたり、運動会の様子を動画配信したりするなど、学校と家庭とのつながりを構築するための工夫が見られた。 ・2学期は、地域との連携が取りづらいう中、感染症の状況を見ながら、オープンスクールを分級での参観にしたり、音楽会を学年ごとの鑑賞にしたりするなど、学校行事にできるだけ保護者が参加できるように柔軟な対応ができており、評価できる。来年度以降も、評価Aを目指して取り組んでいきたい。 ・「すくー」を使ってのリアルタイムの情報発信・提供は、保護者や関係者にとって安心感をもたらすので、今後も継続して行っていただきたい。 ・自己評価Bは妥当である。